ぶらき

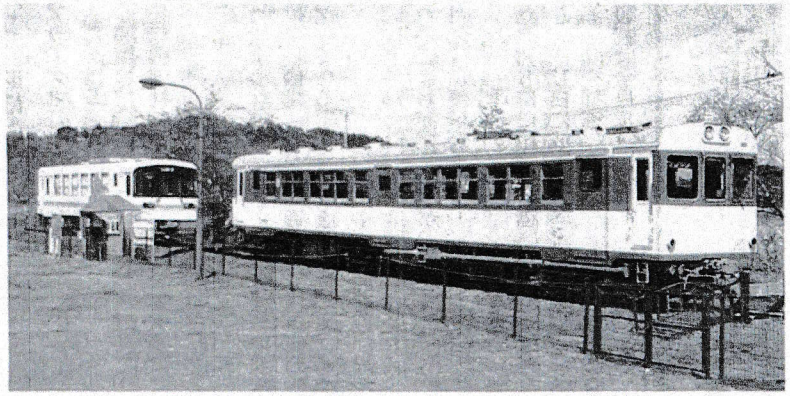
ぶんか

鹿島鉄道（鉾田市）

車両の保存 有志が奔走

6月の大雨被害で休業中の温泉施設・ほっとパーク鉾田（鉾田市当間）の敷地に鉄道車両2両が保存されている。2007年3月末で廃線となった鹿島鉄道の気動車「キハ601」と「KR－505」。地元有志でつくる「鉾田駅保存会」が廃線後に購入して以降、保守管理を行うとともに、車内を月1回公開している。

鹿島鉄道は1922年に設立された鹿島参宮鉄道が前身。29年に石岡－鉾田駅間（27キロ・メートル）が全線開通して以降、沿線住民の通勤通学などを支えた。



保存されている気動車のキハ601（右）とKR－505

クリーム色の車体にオレンジ色の帯をまとった「昔ながら」の車両がキハ601だ。36年に製造され、戦前から戦後にかけて旧国鉄で活躍し、現在は国内に引退済みの3両が残るのみとなっている。国鉄引退後の65年に鹿島参宮鉄道に移り、鹿島鉄道の廃線まで走り続けた。廃線当時の車齢は約70年で、現役としては国内最古の気動車だったという。

白い車体に水色の帯をまとう真新しい気動車がKR－505。鹿島鉄道の最新車両だ。「今にも走り出すのではないか」と思わせるモダンな風貌（ふうぼう）を残している。

キハ601の車内で運転士になりきる子供たち

2両はこれまで何度も危機に見舞われてきた。廃線後、旧鉾田駅から車両撤去の話が持ち上がった。鉾田駅保存会の理事を務める会社員岡野利通さん(59)らが「物心ついたときから家の裏を走っていた思い出の車両を残したい」と立ち上がり、有志から募った資金で同社から2両を購入。旧鉾田駅の土地を借りて、保存活動を始めた。

その後は土地が使えなくなる話が浮上。「土地がなければ車両を保存できない」と保存会が当時の市長に直談判した。市に車両を譲渡し、保存会が車両を管理することを条件に、09年12月にほっとパーク鉾田への移設が実現した。

東日本大震災では地盤が液状化。車両が損傷し、キハ601は自走できなくなったが、車両をクレーンで移動させて線路を敷き直し、12年春からの公開再開にこぎつけた。

座席やつり革、運賃表――。車両に足を踏み入れると、味わい深い当時の雰囲気を感じ取ることができる。運転室にも入室可能で、運転士になりきることもできる。

岡野さんは「産業遺産ともいえる車両が昭和、平成、令和と時代を超えて受け継がれていることを知ってほしい。子供たちにも遊んでもらい将来運転士を目指してもらえたらうれしい」。保存活動への思いを語ると、運転室からは子供たちの元気な声が聞こえてきた。「しゅっぱーつ！しんこーう！」

（吉村悠）

＜メモ＞　車両が展示されている「ほっとパーク鉾田」（鉾田市当間220）は常磐道「千代田石岡」インターチェンジから車で約40分。観覧無料。車内公開は、原則4～11月の第4日曜の午前10時から午後3時まで。今年は9月23日、10月29日、11月26日。詳細は鉾田駅保存会のHP（https://hokotaeki.jp/）

◆「箱根ガラスの森美術館」の入館